

II 令和7年度 邑知小学校 学校研究

I. 研究の概要

(1) 研究主題

自ら学びをコントロールする児童の育成
～自己決定と自己調整力を働かせる授業づくりを通して～

(2) 研究仮説

児童と「共通の軸」を共有し、情報（導入、課題提示等）の提示の仕方を工夫することで、自己決定と自己調整力を働かせながら、スリーステップサイクルを回し、自らの学びをコントロールすることができるであろう。

(3) 目指す児童像

1. 自己決定の目的を明確にして、自らの課題解決に主体的・協働的に取り組む姿
2. 学習内容や学習方法を選択し、学びを調整する姿
3. 学習の進捗を自ら確認し、振り返りを通じて「メタ認知」を働かせる姿

(4) 授業スタイル [次ページ参照]

2. 学校研究の重点（授業づくり・共通実践）

○3ステップサイクル（知りたい・やってみたい・見つめタイム）を回す単元デザイン

○授業における情報の整理・分析場面の充実（Hakuism DIvE2.0 の活用）

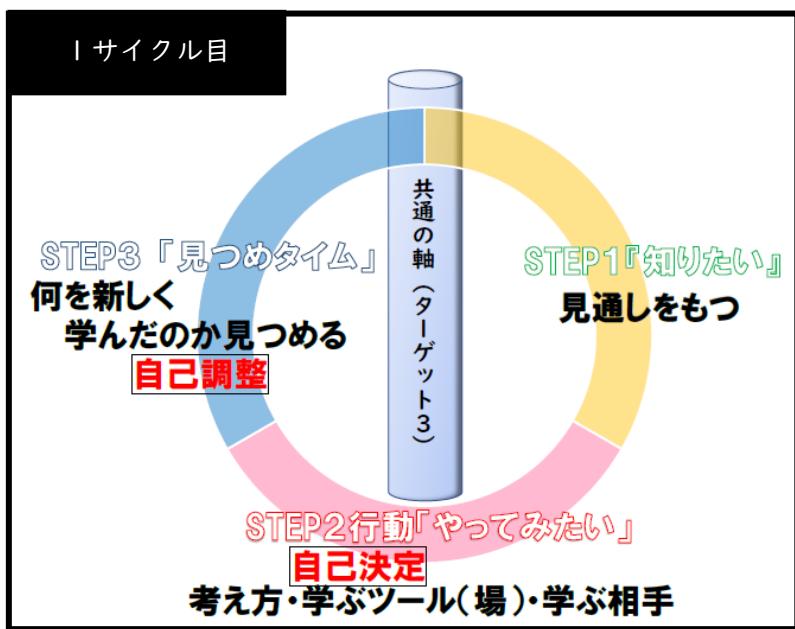
★具体的な方策

- ・単元導入では、「共通の軸（思考の方向性・流れ）」「付けたい力」「単元ゴール」を児童と共有する。
- ・情報を整理・分析するための学び方を共有し、児童自身の学び方の引き出しを増やしていく。
(デジタル教科書、Study Dive の活用等)
- ・振り返りの視点を提示し、児童が自己の学びをメタ認知できるようにする。
(ふり返りシート等)

3. 共通実践につなげるためのモニタリングとアシスト

- 月1回、研究OJTや若プロ（水曜）の時間を活用し、整理・分析するための学び方（デジタル教科書、Study DIvE の活用等）や振り返りの仕方等についての共通実践の進捗状況の共有とアップデートを行う。（データでも共有し、蓄積する。）
- 学期に1回、相互授業参観を行い、整理・分析するための学び方を見合うことで、共通実践や取組の改善につなげる。
- 学習オリエンテーションで、授業スタイルや学び方を児童と共有する。

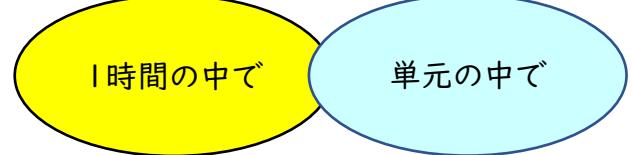
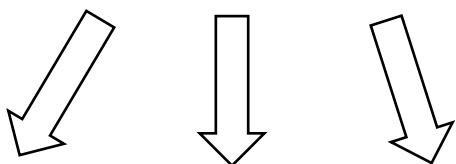
邑知小学校 授業スタイル



ステップ1 「知りたい」 (学習の見通しをもつ)
「できそう！」「友達と一緒に…」「難しい…」

ステップ2 「やってみたい」 (自己調整学習) ※自己決定の場
「ノートで」「PCで」「思考ツールで」「デジタル教科書で」
「教室で」「廊下で」「先生の横で」「調査場所で」
「一人で」「友達と」「一人→友達と」「先生と」

ステップ3 「見つけタイム」 (ふり返り)
(ふり返りの視点を与える)
「何を学んだ?」「なぜ目標を達成できたの?」
「どんな学習方法が効果的だった?」「次はどうしたい?」など



メタ認知②

③整理分析

メタ認知③

④まとめ・表現
⑤ふり返り

2サイクル目

それぞれが学んだことを生かせる2サイクル目へ



さっさと同じ問題に挑戦して
みよう。

友だちの使っていた考え方を
使って一度やってみよう。

別の問題に挑戦したいな。
自分で問題づくりしてみよう。

メタ認知①

情報活用能力

- ①課題の設定
- ②情報収集

メタ認知②

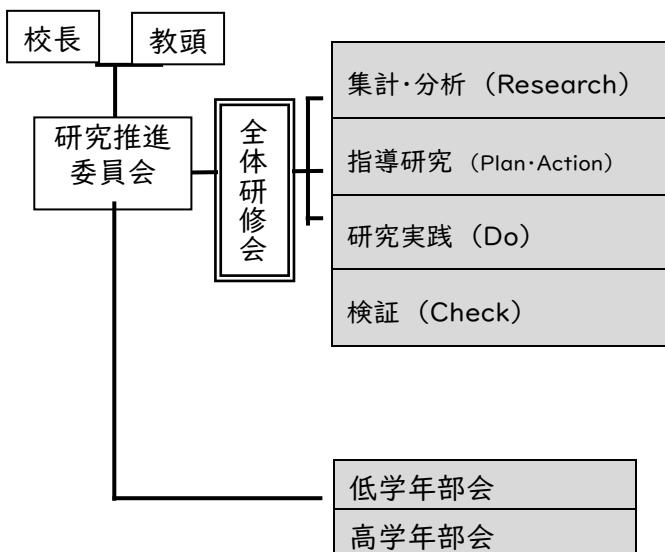
③整理分析

メタ認知③

4. 評価・検証方法

- 学期に1回の「相互授業参観」後に、「相互授業参観シート」「児童の振り返り(メタ認知の仕方)」を基にして、児童の学び方と教師の授業デザインの成果・課題を検証することで授業改善につなげる。
- 「学び方に関する児童アンケート」の結果と「授業者の意識調査」の結果を比較、分析し、組織的な実践の質を検証する。

5. 研究の組織



6. 研修会について

★研究推進委員会(推進委員)

月に1回程度、研究の進捗状況の確認、各チームからの提案・確認・共有

★全体研修会(全員)

月に1回程度、共通実践の確認、各チームで確認

★指導案検討会(低学年ブロック・高学年ブロック)

要請訪問の指導案検討を行う(訪問日の1ヵ月程度前)

★模擬授業(必要に応じて)

要請訪問の模擬授業を行う(訪問日の2週間程度前)

★授業整理会(全員)

要請訪問の授業整理会を行う(訪問後)